大仁東地区のライドシェア運行について

古屋鋭治

問 **公共ライドシェア実証運行が計画されている。①実証運行を行う理由は。②運転手確保の状況は。③交通事故発生時の補償はどのようか。④本格運行の時期は。**

答 ①ライドシェア導入に向け、効果や課題等を検証するため実施する。今回は無料の実証実験で効果を認識していただきたい。②運転手希望は10人（男性4人、女性6人。浮橋区4人、田原野区6人）。③事故発生時の補償は、住民ドライバーの任意保険対応となる。④本格運行は、令和8年秋頃。

市営住宅の今後について

問 **①市営住宅の現在の施設数と入居者数は。②今後取り壊しを計画している住宅はどこか。③市営住宅の今後のあり方は。**

答 ①現在は、8団地167戸（152世帯288人）である。②今年度に田京住宅（年内着工）を解体予定である。③今後は、建築年数が古く、準耐火構造で長期利用の困難な新帝産台住宅、桜木町住宅、旭平住宅は、耐用年数の経過した時点で新規募集を停止し、入居者の減少する令和17年度以降に廃止、解体の見込み。但し、廃止年次は未定。

取壊す田京住宅

特別職の報酬見直しについて

問 **①行政側三役の給料見直しを行う理由は。何故、議会側を含めた諮問としないのか。②報酬審議会のメンバー構成や今後の進め方については、どのようか。③行政側三役の給料は、審議会に対し給料増額を諮問するのか。**

答 ①2010年に現行の額（合併時の額から引き下げた金額）となって以来、見直しを行っていない。議会側から要請があれば審議会に検討を依頼する。②審議会メンバーは、有識者4人、公共的団体3人。10月1日に第1回審議会を開催し、全4回で11月上旬に答申をいただく予定。③行政は、社会経済情勢等を踏まえ適正な額について審議していただくよう諮問する。

本市の産業振興策と経済の活性化について

柴田三敏

問 **宿泊業の経営力基盤強化事業費補助金による支援については。**

答 旅館やホテルが保有する社員寮は市内に18件あり、そのうちこの事業の従業員宿舎の改修に対する補助金申請予定は、6件となっている。この事業は、令和6年度から開始し、県と市との並行補助でこの活用を希望する声はまだあることから、県に対し事業の継続を要望していく。その他では、宿泊業に限らず、市内の産業振興の経営の安定化を目的として、市内の中小企業を対象とした短期経営改善資金制度や、小口資金融資制度を用意している。

問 **宿泊税の導入の検討状況は。**

答 今年度6月30日に開催した観光戦略会議にて宿泊税の導入等について検討したい旨説明した。今年度中には委員の意見を集約し、一定の方向性を見いだしたいと考えている。

問 **インバウンドの受入れ整備については。**

答 インバウンド客はSNSに掲載されるリール動画などを閲覧して旅行先を決めることが多いとのこと。今年度、外国人移住者の目線で市内の観光スポットやイベント等の写真撮影をし、リール動画をSNSで掲載することなどで情報発信の強化を図っていく。

企業誘致について

問 **具体的な内容については。**

答 市内には企業誘致ができる事業用地が限られており、今年度県補助金を活用して、新たな事業用地の候補地選定の調査を行っている。この結果を踏まえ、令和8年度に候補地を絞り込み、令和9年度には現地の開発可能性調査を行う予定であり、10年以内の造成を目指している。

問 **候補地の可能性については。**

答 交通アクセスのよさが重要であり伊豆中央道のインターチェンジ周辺の土地が候補と考えられる。

今回は12人が行い当局の考え方を質問しました。
インターネットによる生中継の映像配信を行いました。

韮山城跡関連事業は「百年の計」をもって進めるべき

高橋隆子

問 **韮山城跡（にらやまじょうあと）附付城跡（つけたりつけじろあと）が国史跡に指定された。今後の国からの支援は。**

答 保存・整備事業に国庫補助を受ける。地権者には固定資産税免除、相続税軽減措置がある。

問 **市内外への普及啓発事業は。**

答 令和8年度開館に向けて建設中の文化財展示施設のオープニングに合わせ、記念シンポジウムを検討している。韮山城と北条早雲公について発信するため、韮山城まつりを開催予定。

問 **小中学校での歴史学習は。**

答 校外学習、副読本等で学習する。歴史を理解し本市の良さを世界に発信できるようなグローバル教育にも力を入れていきたい。

問 **どのように情報発信を強化するか。**

答 SNS、マスコミ、ホームページ等で広く韮山城の価値をアピールしたい。

問 **文化財展示施設との連携は。**

答 常設展示室では韮山城を中心とする戦国時代は主要なテーマのひとつ。展示施設を拠点として、市内の史跡や文化財を巡ることができるよう、マップの作成等を進めている。

問 **城跡のある自治体等との交流は。**

答 北条五代観光推進協議会、東京都八王子市、岡山県井原市や近隣の沼津市、三島市等とも歴史交流を進めたい。

道路側溝、水路等の安全管理について

問 **側溝等の老朽化が顕著であり、側溝蓋の上が歩道になっている道路は歩行者に危険が及ぶ。市内全体の調査と補修の計画はあるか。**

答 全てを確認するのは難しい。市民からの通報、道路パトロール、地区部農会等からの通報により確認している。

問 **「子どもの移動経路に関する交通安全プログラム」で通学路の合同点検を行っているが、学校との連携は。**

答 学校と園、警察、道路管理者、学校運営協議会、地域の方々と危険箇所の抽出や安全対策の実施を継続する。

誰もが参加できる選挙環境の整備と投票率向上の取り組みについて

森下 茂

問 **今回の参議院議員選挙の投票結果の分析と今後の取り組みについて。①市民に対する投票への周知方法。②投票環境向上に向けた市の取り組みと若者への主権者教育は。③大型量販店での投票所開設は。**

答 ①ポスターやのぼり旗、市公式ライン発信、同報無線やFMいずのくにによる放送で周知。②投票所廃止地域に、公用車を用いた移動期日前投票所を開設。主権者教育では、選挙経験のない高校生を対象とした選挙出前授業を実施。③オンラインシステム導入、会場確保等の課題解消に向けて研究する。

問 **障がいなどで移動や投票用紙記入が難しく、投票所に行くことに困難を感じておられる方の対応について。①全ての投票所がスロープやバリアフリー対応か。また、車椅子や障がいのある方に必要な器具の用意は。②投票支援カード、コミュニケーションボードの採用と、使い方の周知は。③投票支援カードによる投票人数は。④障がいのある方やそのご家族より投票に関する意見やトラブルの有無は。**

答 ①24投票所の全ての施設がバリアフリーではないが、簡易スロープなどで対応し、車椅子や点字器は配備している。②障がい福祉課と連携し支援を必要とする方へ周知し、ホームページなどにも記事を記載している。③利用された方は把握していない。④ご意見やトラブルはなかったが、車椅子での室内移動が難しかったため、投票台や投票箱を移動して対応した。

問 **障がいのある方の投票時の様々な問題を踏まえ、今後、障がいのある方への市の対応は。**

答 投票所での対応に不手際がないよう、今後も投票事務従事者に対する説明会では、高齢者や障がいのある方へ丁寧な対応をするよう指導していく。

夜間も安心して外出し帰宅できるよう防犯灯の整備を

三好陽子

問 防犯灯のLED化は、総合計画でLED化が位置づけられ、平成29年度から順次実施された。LED防犯灯は、耐久性に優れ故障が少ない、消費電力が少ない、二酸化炭素排出量が少なく環境にやさしい利点があると言われているが、LEDになって暗くなったとの声も聞かれるがどうか。

答 従来の蛍光灯とLED灯の一定の明るさを確保するための設置推奨距離を比較すると、LEDの方が3割程度優れている。LED化の前より明るさが低下することはないと認識している。

問 防犯灯の設置要望は、主に地区要望としてあげることになっていると思うが、防犯灯の整備計画はどのようか。

答 防犯灯の新規設置は、区からの要望を受け職員が現地を点検し、設置基準に照らして整備を進めている。整備計画はないが、要望は区内に限らず、区民の通勤・通学経路への設置についても受付、対応している。

高齢者福祉施設の温泉集約化は慎重に検討を

問 公共施設再配置計画で機能統合するとされている高齢者福祉施設について、高齢者福祉施策のあり方審議会の答申を踏まえ、高齢者温泉交流館と高齢者健康会館の温泉設備は更新しないとの方針が示された。利用者から「いつまで温泉を利用できるのか」と不安の声が聞かれる。水晶苑に集約するスケジュール作業の進捗状況は。

答 温泉設備の大規模改修の時期や費用に関する調査や今後の施設運営について検討をしてきた。庁内行政経営会議に諮り、令和7年11月に議会全員協議会で報告する予定である。

問 集約化について、市民から様々な意見や要望が聞かれる。説明の場を設けて理解を得る必要があると思うが。

答 魅力ある場所となるよう、温泉設備の統合スケジュールや、今後の施設運営方針を利用者に示し理解を得る努力をしていく。

老人憩の家「水晶苑」

伊豆の国市在住の外国人市民への災害時における情報の共有について

小澤五月江

問 外国人向けのハザードマップの活用の状況、また、外国人向けの解説動画の作成をする考えはあるか。

答 11人参加の外国人に向けた出前講座でハザードマップの見方や自分の住んでいる場所から、どこに避難すべきかも確認し活用した。HPでも多言語も選択できる。なお、外国語版の防災マップ解説動画の作成を今後検討している。

高齢者福祉施設の再配置の方向性について

問 高齢者だけでなく、多世代交流の場として、利用範囲の拡大や利用目的の展開は。いつ、どのように検討していくのか。

答 多世代の市民が利用できる施設運営の可能性を検証するため、高齢者健康会館（やすらぎの家）を学生が利用可能な時間帯に自習室として試行的に開放することを検討している。その結果を踏まえ、一定程度の利用が見込まれるのであれば、現在条例で高齢者の利用に限られているが、多世代の市民が利用できるよう、来年度中の改正を検討する考えでいる。

バスケットゴールを活用した中学生・高校生の居場所について

問 閉園後の共和幼稚園において屋外スポーツを活用する考えはあるか。

答 園庭は、今のところ屋外の遊び場として現状のままでの利用を考えている。

問 市内の公園等にバスケットゴールを設置する考えがあるか。

答 他市町の公園や閉鎖した公共施設に設置した事例を参考に、今後研究していく。引き続き、子どもの声を聞きながら、公園や公的な未利用地の活用も視野に入れた子どもの居場所づくりを考える。